

調査① 障害のある人の調査

〔調査のあらまし〕

調査目的

本調査は、障害のある18歳以上の市民を対象に、障害者福祉に関する意見や要望を把握することにより、府中市障害者計画・障害福祉計画（第8期）・障害児福祉計画（第4期）の策定のための基礎資料を得ることを目的とする。

今回の分析のねらい

障害種別、障害特性、障害程度別等で分析することで、障害状況に応じた施策の検討に資する。なお、前回調査は、令和元年度の「府中市福祉計画（障害者福祉）調査」で実施した、「障害のある人の調査」である。

〔主な調査結果の抜粋（全体結果）〕

〔日常生活〕

- ・ 日常生活の（1）食事～（11）障害福祉サービスなどの手続き、のそれぞれの行為について、「ひとりでできる」と回答した割合は、すべての項目で半数以上となっているが、（11）障害福祉サービスなどの手続きについては、54.8%（前回：50.7%）で最も低い値であり、「全面的に介助が必要」も2割を超えている。（問4）
- ・ 将来の不安については、「生活するうえで十分な収入があるか」、「必要な医療を受けられるか」、「ひとりで手続きや財産管理ができるか」、「日常の介助者いるか」などが4割台（前回：46.3%、40.7%、38.8%、42.9%）で最も高くなっている。（問5-4）

〔障害福祉サービスの利用〕

- ・ 障害福祉サービス利用について（1）訪問系サービスから（8）補装具・日常生活用具費の支給まで、利用できているかどうか、また利用意向についてもたずねたところ、（6）「相談支援」については、「希望通り利用できている」との回答が約15%（前回：11.4%）であったが、それ以外の項目では、「利用したくない」、「分からない」と合わせた回答が半数を超える結果となっている。（問6）
- ・ 障害福祉サービスの満足度をたずねたところ、「満足」と「やや満足」を合わせた割合が7割（前回：65.6%）、「やや不満」と「不満」を合わせた割合が2割程度（前回：21.4%）となった。サービスに不満な理由をたずねたところ、「希望する曜日・時間帯に使えない」が最も多く、「サービス支給量が少ない」、「緊急時に利用できない」、「希望通りの内容でサービスが使えない」などの回答が続いている。（問6-1）

〔就労〕

- ・ 就労状況では、「仕事はしていない」が約49%（前回：55.5%）であり、「一般就労」が約19%（前回：17.3%）となっている。仕事をする上での不安としては、「収入が少ない」が約44%（前回：38.2%）、「通勤がたいへん」が約19%（前回：15.7%）、「仕事がきつい」は約17%（前回：11.5%）となっている。（問11、問11-1）
- ・ 働くために希望することとしては、「自分の家の近くに働く環境があること」や「必要なときに健康状態に合わせた働き方ができること」の2項目が40%弱（前回：40.6%、40.9%）で高い割合である。（問13）

〔情報機器やSNSの利用〕

- ・利用している情報機器として最も多いのが、「スマートフォン」であり約72%である。利用しているSNSでは、「LINE」が約61%、「YouTube」が約42%で高い割合である。(問15、問16)

〔相談・権利擁護〕

- ・どこに相談したらよいかわからない悩みを「抱えている」割合は約30%であり、内容は「自分・配偶者の健康・病気」や「お金(財産管理・相続含む)」が半数前後となっている。(問18) ※共通設問
- ・いじめを受けたり、不当な扱い(虐待なども含む)を受けた経験は、「ある」が約29%である。(問19)
- ・介助の負担やストレスの軽減として重要なこととして、「本人の世話によって生じる経済的な負担が軽減されること」が最も多く、次いで「医療機関のサービスの充実」や「相談先の充実」の割合が高くなっている。(問20)

〔防災〕

- ・地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することができる人は約52% (前回: 45.7%) であり、避難を助けてくれる人がいない人も約17% (前回: 10.9%) にのぼっている。(問24、問25)
- ・災害時に困ることや不安なことは、「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」や、「医療や常備薬の補給を受けられるかわからない」を挙げる割合が、それぞれ半数近く (前回: 51.4%、※「医療を受けられるかわからない」34.2%) となっている。(問26)
- ・また、避難所での配慮についても、「個室、間仕切りなどでの対応が可能であること」や、「医療や医薬品の確保」を希望する割合が、それぞれ6割 (前回: 57.2%、54.2%) となっている。(問27)

〔地域活動〕

- ・地域活動やボランティア活動、地域行事に、「あまり参加していない」「まったく参加していない」の合計は8割以上 (前回: 77.9%) であり、参加していない理由としては、「障害や病気で体調がよくないため」や、「きっかけがない」、「人間関係がわずらわしい」などの理由が挙げられている。(問34)

〔共生社会〕

- ・共生社会(ノーマライゼーション)が府中市民に十分理解されているかに、「はい」と回答する割合は29% (前回: 19.2%) にとどまっている。「いいえ」と回答した人が、どのようなことがあれば理解されていると思うかについては、「特別な目で見ない」が41% (前回: 52.7%) で最も高くなっている。(問36)

速報からみた考察（案）

- 日常生活の様々な生活行為を「ひとりでできる」割合は多いものの、サービスの手続きについては、ひとりでできる割合が最も低く、とくに「必要な医療を受けられるか」、「手続きや財産管理ができるか」を不安に感じる人が多い傾向にある。サービスの利用支援として、いっそうの医療へのアクセスや緊急時の体制の整備が求められる。
- サービスの満足度は概ね高いものの、不満と回答した方の理由としては、「希望する曜日や時間帯に使えない」ことや、「サービス支給量が少ない」、「緊急時に利用できない」、「希望通りの内容でサービスが使えない」などの回答が多く、サービスの内容・利用方法の周知や柔軟な提供体制、さらなる緊急時対応が必要となっている。
- 就労について、仕事をしていない人が半数近いものの、仕事をしている人の、仕事する上での不安としては「収入が少ない」、「通勤のたいへんさ」、「仕事のきつさ」を挙げる人が多い。働くうえで希望することとしては「自分の家の近くに働く場所がある」や「健康状態に合わせた働き方ができること」が多く、身近な就労場所や健康状態に応じた仕事が求められる。
- 介助者に関する設問では、「介助者への経済的支援」、「医療機関のサービスの充実」、「相談体制の強化」が必要とされ、さらなる介助者・介護者支援が課題である。
- 地震や災害など緊急時に、ひとりで避難できる人は半数にとどまり、困ること・不安なこととして、大勢の人の中での避難所生活に不安があることや、医療や常備薬の補給を受けられるかわからない、などが多く挙げられた。また避難所での配慮についても、個室や間仕切りなどでの対応や医療や医薬品の確保に関する希望が高く、支援体制の拡充が課題である。
- 地域活動についてはしていない人の割合が多く、障害や病気で体調がよくないため、きっかけがないや人間関係がわずらわしいとの理由が多くなっている。このことから活動の参加へのきっかけづくりや人間関係の負担を減らす工夫が必要である。
- ノーマライゼーションの理念が理解されているかに、「はい」と回答する人は 29%であり、これからも、すべての市民への理解を深める方策を講じることが課題である。